

弊害防止措置(ファイアーウォール)の緩和について

平成19年11月14日

国際銀行協会会長

ポール・クオ

1.国際金融センターと規制環境

- 日本のプレゼンスは大きく低下
 - 日本に所在したアジア太平洋の統括本部の殆どが香港に移管
- 規制環境は国際金融センターにとって最重要項目
- 他の国際市場との大きな違いはファイアーウォール規制
 - 世界のトレンドは、構造の規制から行為の規制へ
- 国際競争力強化のためにファイアーウォール規制の見直しが必要

2. ファイアーウォール規制の国際的トレンド

- 国際的にはファイアーウォールは緩和される方向
 - 先進国で機械的なファイアーウォールが存在するのは日本のみ
 - 他の先進国では個社の自己規律とベスト・プラクティスが確立
- 将来的には、日本もユニバーサルバンクを目指すべき
 - 国際競争を生き残るためにはequal footingが必要
 - 当面は、個別事項への必要な手当ての積み重ね

各国における規制上のアプローチ

	銀行業・証券業の厳格な分離 (厳格なファイアーウォール規制)	過渡的なシステム (ファイアーウォール規制の緩和)	統合されたシステム (銀行本体における証券業の運営)
欧州		<ul style="list-style-type: none"> ◆ ノルウェー ◆ ロシア 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 欧州連合 ◆ スイス ◆ トルコ
米州		<ul style="list-style-type: none"> ◆ ブラジル ◆ カナダ ◆ 米国 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ メキシコ
アジア太平洋	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 中国 ◆ 日本 ◆ 韓国 ◆ 台湾 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ オーストラリア 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 香港 ◆ ニュージーランド ◆ シンガポール



出所: 世界銀行、UBS



3. 効率性と顧客保護・顧客利便性

- 効率的サービスは顧客保護と表裏一体
 - 人員とインフラの重複や非効率な資本配分によるコストが発生
 - 経営効率性を高め、顧客へのコスト転嫁を軽減
- ファイアーウォールの緩和は金融技術革新に貢献
 - 銀行と証券の技術が融合したハイブリッド商品の開発
 - 企業のキャピタル・ストラクチャーへの総合的なアドバイス
 - 顧客情報の共有によりテラーメイドの提案が可能
- 兼職や経営戦略の共有は顧客利便性に貢献

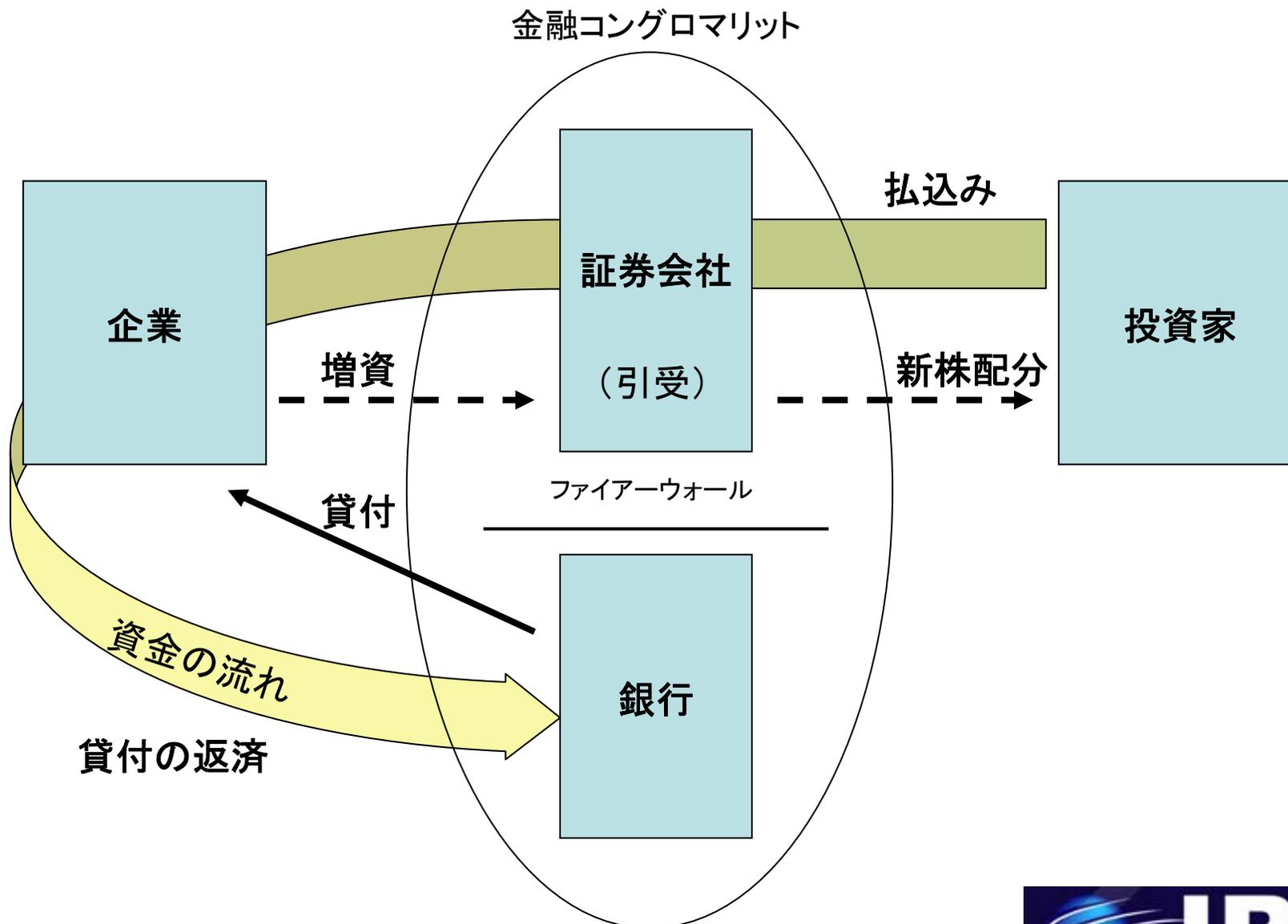
4. リスク管理

- ファイアーウォールはグループ規模のリスク管理を阻害
 - ファイアーウォールによって適切な情報共有ができない
 - リスクが別々に管理されているため資本効率が悪い
- 外資系金融コングロマリットにとっては、カンントリーマネージャーの設置がリスク管理上の課題

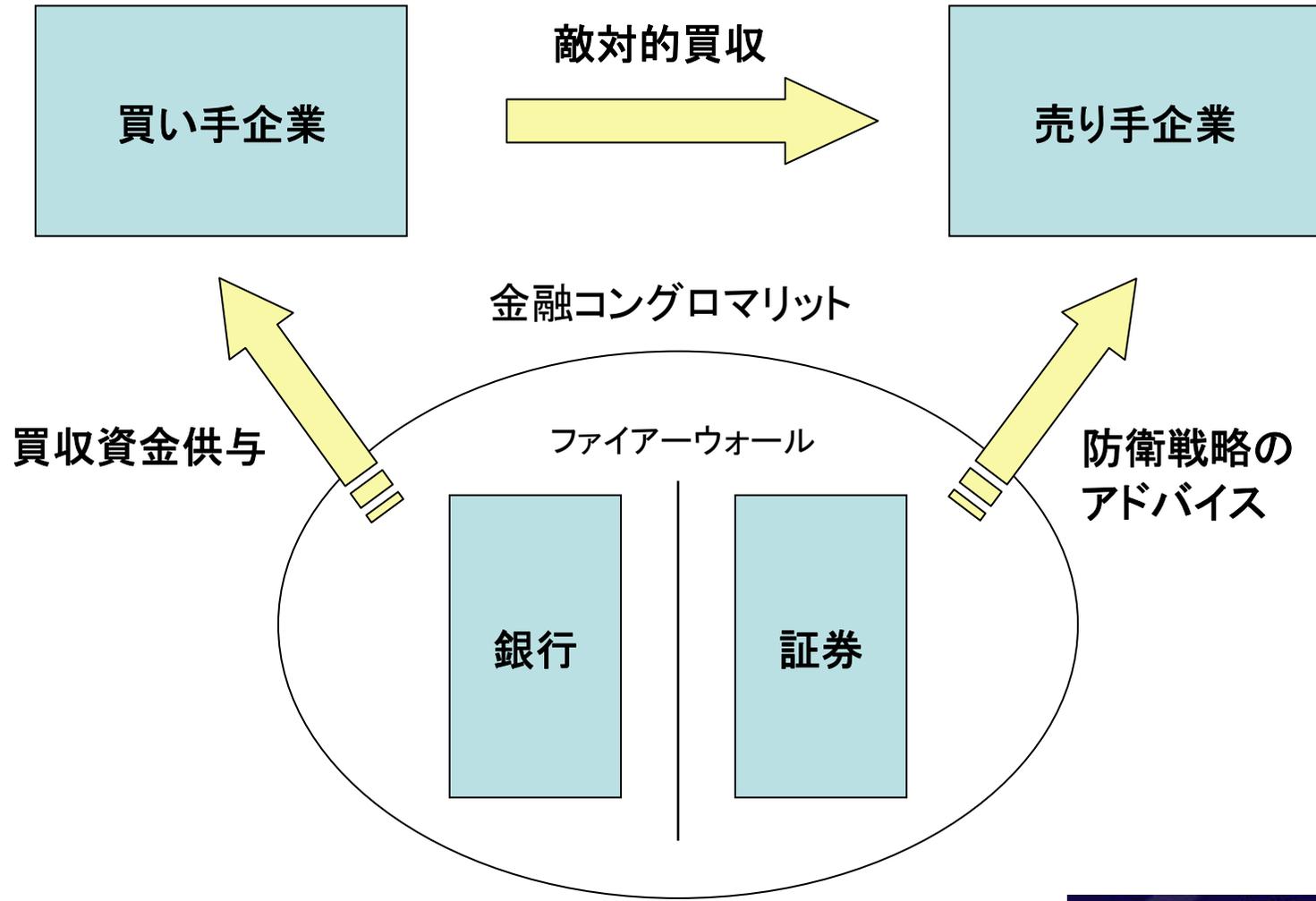
5. 利益相反への対応①

- ファイアーウォールによるグループとしての利益相反の管理は不十分
 - 利益相反の存在を知らなかったという抗弁は脆弱
 - 利益相反を見極め、最適な解決策を取ることがベスト・プラクティス
- 増資における利益相反の例(7ページ参照)
- M&Aにおける利益相反の例(8ページ参照)

増資における利益相反



M&Aにおける利益相反



5. 利益相反への対応②

- チャイニーズウォールという自己規律を軸に管理されている利益相反の方が多い
 - リサーチ部署の独立性
 - 内部者取引
 - 自己勘定投資とアドバイザリー業務
- 自由化と自己規律は表裏一体
 - 利益相反の多様性に対応するためには自己規律に基づくベスト・プラクティスの実施が不可欠
 - 内部統制の強化やディスクロージャーによる市場の監視が重要
- 個人顧客の情報共有の管理は個人情報保護法によるべき

6. 優越的地位の濫用への対応

- **メインバンク制の下でファイアーウォールは機能不全**
 - 銀行が優越的地位にある現状では、銀行自身の自己規律が必要
- **優越的地位の濫用や抱合せ販売の防止は独禁法で規制すべき**
 - 銀行と証券の間ではなく、銀行内部で違反が発生する場合も

7. 結び

- ファイアーウォール規制の緩和は、金融技術革新を触発し、リスク管理手法を高度化し、さらには金融機関の効率性を高め、市場や金融機関の国際競争力を強化する
- 金融自由化の中で国際競争に生き残るためには、顧客ニーズへの柔軟な対応が不可欠
- 顧客保護と顧客利便性を最適な形でバランスさせる努力と自己規律が、ベスト・プラクティスの本質